

人口高齢化の進展はますます進んでいる。2016年時点で65歳以上の高齢者人口は3500万人に接近しており、総人口に占める割合は27%となっており、今後も引き続き上昇が見込まれる。国立社会保障・人口問題研究所の2017年4月推計によると、65歳以上高齢化率は2050年前後には38%になり、高齢者数も4000万人に接近するとみこまれている。特に75歳以上の高齢者の増加は著しく、2016年時点で65歳以上の高齢者の中に占める75歳以上の割合は50%であるが、将来70%まで上昇し、全人口に占める割合も現在の13%（2016年）から2040年頃には20%まで上昇する。今後は、65歳以上高齢者に着目した議論から、特に75歳以上の高齢者の増加に着目した議論が重要になる。

75歳以上の高齢者の増加に主因には、高齢期の死亡率の改善、すなわち長寿があり、2065年には女性の寿命は91.35歳に到達すると見込まれており、日本人はすでに「人生80年」から「人生90年」の時代に入りつつある。

長い人生を豊かに過ごすためには、健康維持とともに、資産形成、家計管理・資産運用が重要になる。他方で、加齢とともに認知機能の低下などの課題も発生する点の対応も重要になる。生活経済学会関東部会で、長寿・加齢（認知能力の低下）に伴う家計管理、資産運用、相続の諸問題について議論したい。

議論のテーマには、生涯にわたる資産形成、家計管理、資産運用に加え、成年後見人制度、高齢化社会における金融サービスのあり方、相続（世代間、世代内）、社会保障制度など動向も関係すると思われる。また長寿化により単身期間が長くなる女性の資産管理、運用も議論したい。